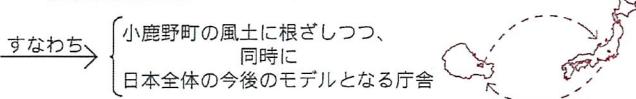


(業務実施方針)

小鹿野町の森林資源を最高度に活かし、町の新しい中心となる美しい「木の庁舎」をつくる(業務の取組み意欲)

四つの基本姿勢

1. これから地域共同体のあるべき理念を具体化する

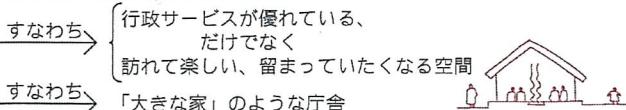


3. 町民と一緒にして設計に取り組む

すなわち これまでの庁舎設計の経験を活かす、と共に初心に立ち帰って町民と話し合う

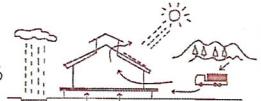


2. 町民のための庁舎をつくる



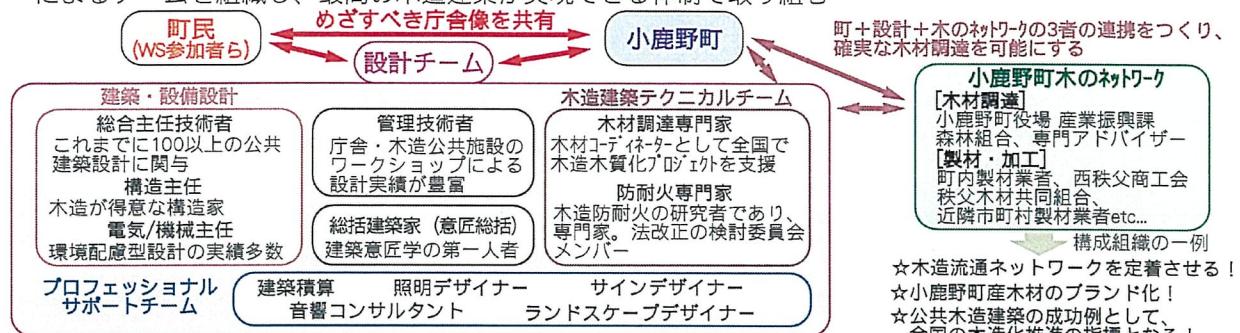
4. 自然を生かし、自然と調和した建築をつくる

すなわち 伝統的な知恵を生かす、と共に最先端の技術を適切に用いる



各分野のエキスパートを集結し、国内最高峰の「木の庁舎」を実現する(実施体制・設計チームの特徴)

- 地場産材による木造庁舎の設計実績(国交省サステナブル先導事業(木造)に採択)を持つベストメンバーを集结
- 木造建築文化に精通した総括建築家を中心に、木造建築で国内有数の専門技術陣と各分野の優れたデザイナーによるチームを組織し、最高の木造建築が実現できる体制で取り組む



全ての町民にとって「大きな家」のような庁舎をつくる(業務推進にあたり特に重視する設計上の配慮事項)

小鹿野町に最もふさわしい木の庁舎を共に考える

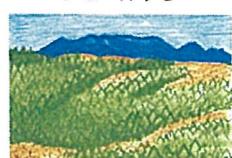
町の豊かな伝統文化を感じられ、町民の居場所となるゆたかな庁舎をめざす

- 歌舞伎をはじめ、豊かな郷土の魅力が全面的に感じられる建築をつくる
- 庁舎機能は元より自習や展示、休憩、読書など、多様な空間性を持つ施設を実現する
- 「奇抜さ/珍しさ」よりも「斬新で居心地よく、何度も来ても良い」が感じられる
- 日本の伝統意匠を現代的に再解釈し、小鹿野町にふさわしい現代建築をつくる
- 地元の優れた木造建築から学び、土地の環境に適したつくりとする



木の長所を活かし、温かみが感じられる内部空間をつくる

- 全ての世代が気兼ねなく訪れ、滞在したくなるような優しい「陽だまり空間」をつくる
- 無垢材/集成材/板材等の様々な材を用いて、美しい木の表情で全体を包む



庁舎設計が、地域社会の未来を考え、まちづくりの契機となるように進める

町役場および専門アドバイザーや町民らと緊密に連携しながらすすめる

- 設計ワークショップを実施し、町民の意見を積極的に設計案に反映させる
- これまでのワークショップや検討委員会での検討過程を尊重し、更に発展させる



誰もがわかりやすいプレゼンテーションと、情報の開示

- 模型や3Dパース、スケッチなどわかりやすい視覚的資料を用いる
- ワークショップの様子や設計経過を情報開示し、全ての町民にとってプロジェクトが身近になり、地域の未来やまちづくりを考える契機となるようにする

設計工程とコスト管理を徹底し、段階的な木材発注が実施できるように成果目標を明確にして進める

